

## 市史講座第 5 回ミニレポート

8 月 17 日(土)第 5 回の講座が開かれました。

第 1 部 : 「出雲地方の地質と化石」(講師: 島根大学大学院総合理工学研究科教授 入月俊明 先生)



地球が誕生してから 46 億年の歴史の中で、出雲地方の地層や岩石も形成されました。日本の中でも出雲地方は有数の地層・岩石・化石が見られる場所だそうです。そのような出雲地方の地質の概略と岩石・化石が産出される地層について、わかりやすく写真や岩石・化石を示しながら時代を 3 つに分けて講演されました。

### 1、大陸の時代

8000 万年～3000 万年前の日本は、ユーラシア大陸の東縁部に位置し、日本列島はまだなく、大陸の一部だった時代。まだ人類は誕生していません。恐竜が栄え、隕石衝突で恐竜が滅び(約 6600 万年前)、やがて哺乳類が進化をし始める間の時代です。マグマが固まって出来た花崗岩が中国山地

には多く分布します。この岩石は磁鉄鋼(真砂砂鉄)を含んでいますから、たたら製鉄が行われる基になりました。鬼の舌震の巨大な岩塊もこの頃の大陸と同じ岩石です。

### 2、大陸分裂の時代

約 2000 万年前、盛んな火山活動で大陸は分裂を始めました。日本列島とユーラシア大陸との間に淡水が入り、湖や川・汽水湖が出来ました。島根半島で一番古い地層の古浦層はこの頃形成されたものです。砂岩と泥岩が堆積し、その中に大陸性の貝化石、ビーバー、すっぽん、ワニの足跡化石が見られます。出雲地方南部の佐田層・波多層は、龍頭が滝や八重滝の岩石、海潮温泉の河床などです。大森層は立久恵峡や、めのうが産出する花仙山、来待石などがこの層の岩石になります。

### 3、日本海拡大の時代

1800 万年～1450 万年前、それまで湖・川だった所へ海水が急激に侵入し、日本海が出来上り、今のような位置に日本列島が定着した時代です。古浦層の上に海水が急激に侵入し、海底の火山活動を示す流紋岩や火砕岩が重なり、美保関町の惣津海岸や鹿島町の御津海岸などを現出する層は成相寺層です。またこの層には柱状節理という甲殻類の巣穴化石も見られます。砂岩層と泥岩層が交互に重なりあっている牛切層は島根町の須々美海岸・美保関町の千酌海岸・出雲市の小伊津海岸などで、1500 万年～1400 万年前の地層です。ここからはクジラの化石などが発見されています。浅瀬や河口に堆積した砂岩や泥岩からなる層は松江城の土台になった層で、松江層といい、島根県庁と城の間の堀や城内を散策すると見る事が出来ます。松江層からはアユの化石が発見されたりしています。

最後に出雲地方の地質と化石は学術上高い価値があり、島根地質百選の選定や、くにびきジオパークプロジェクトセンターも設立され、研究活動が行われていると話されました。

#### 第 2 部：「民話(鉈(なた)盗られ物語ほか)」(講師: 山陰民俗学会会長 酒井董美 先生)

酒井先生は 1960 年代から島根県各地の民話を収集し、整理分析してこられました。今回その多くの収集民話の中から「鉈盗られ物語」と「天人の嫁さん」の2つの民話を紹介されました。民話の内容を活字にしたレジメだけでなく、カセットテープに吹き込んだ語り手の貴重な生語りも合わせて披露されました。共に 1970 年代に美保関町七類と万原地区の方で、当時 60 才代の婦人から収録された作品です。出雲弁での語りに聴講の方たちは懐かしさを、或いは出雲弁を聞きなれない方は活字におこされた出雲弁と読み比べつつ静かに聞きいった時間でした。



「鉈盗られ物語」は鉈を貸したところ、返さないので請求しにくついたちの日に行くと「ついもどいた」<ふつかめに行く>「不都合なことばかりいう」<みっかめに行く>と「見たことにゃ」と返事する。毎日返すように10日目まで請求しても、とうとう返さず盗られてしまったという話が、韻を踏んで1～10番まで歌のように語られる話です。

この同類の話は東北の庄内地方の民話にも早物語として語られています。東北と七類の間をつなぐのは日本海上を行き来した江戸時代中期から明治中期頃までの北前船でしたから、この話は船乗りによってもたらされたのではないかと、その関連性を指摘されました。

「天人の嫁さん」は、自分の羽衣を盗んだ男の嫁になった天女が、子供も出来た頃、盗まれた羽衣が見つかり子供をつれて天へ帰ってしまいます。後を慕った男が朴ノ木に伝って天へ昇って行き、天女(妻)と子供に再会しますが、天女の父が難問を次々に出します。けれど、天女の助けを借りて凌いでいましたが、男は決して食べてはいけないと言われていた瓜をつい美味しさにつられて食べてしまいます。その時、後から弁当を持ってきた天女との間に大水が起き、川になってしまいました。瓜を食べたからには、もう二人は一緒に居られないことになり、1年に一度7月7日しか会うことが出来なくなったという話です。これは有名な説話で世阿弥の謡曲「羽衣」として知られています。

また、同種の話が倉吉市の打吹山由来の伝承にあります。これは天女(母)が天に昇ってしまったので、残された子供たちが悲しんで、鼓や太鼓を打ち、笛を吹いたりしたこと、から、「うったり・ふいたり」で「打吹山」になり、二人の子供が「おくら」と「およし」だったので「倉吉」になったと伝承しています。

このように天女の話は各地に広まり、地域々々の伝承として根づいていくとお話でした。